

富山市と連携・協力に関する基本協定締結

2017年12月14日（木）、IGESは、富山市主催の「低炭素社会形成に向けた都市間連携フォーラム」において、持続可能な社会の実現と脱炭素化社会の構築に寄与することを目的とし、富山市と連携・協力に関する基本協定を結びました。

富山市は、2008年に環境モデル都市第一認定、2011年に環境未来都市認定を受けるなど日本国内でその先進的な活動が評価されているだけでなく、2012年にOECDのコンパクトシティ報告書の5つのケーススタディー都市（他はメルボルン、バンクーバー、パリ、ポータランド）に選ばれ、2014年には国際連合が提起したイニシアティブSE4All（Sustainable Energy for All: 万人のための持続可能なエネルギー）の「エネルギー効率改善都市」に、同じく2014年にはロックフェラー財団が推進する「100のレジリエント・シティーズ（100RC）」都市に選定されるなど国際的にも高く評価されている都市です。

これまでも富山市とIGESは、昨年2016年5月15日に富山市で行われたG7富山環境大臣会合「都市の役割」パラレルセッションにおいて、共同議長としてG7各国から参加した市長や国際機関らと議論を深め、翌日その成果をG7の環境大臣らに報告したことをはじめ、100RCパートナー機関であるIGESとの協働により、同じく100RCに選定されているインドネシア・スマラン市を対象に、環境省平成29年度低炭素社会実現のための都市間連携事業を実施するなど、国際的な活動を共同で展開してきました。

当日は、高橋康夫 環境省地球環境審議官、堀江正彦 外務省参与、ヘンドラー・プリハデイ スマラン市長、ボイド・ジョウマン マレーシア・イスカンダル開発庁環境部長、スタンリー・チョン コタキナバル都市計画部長の臨席のもと、150名のシンポジウム参加者の前で、スマラン市と富山市の包括協定締結に続けて、森 富山市長と武内 IGES 理事長が本基本協定にサインしました。

今回の基本協定を受け、IGESは富山市が企業や市民らと進めてきた優れた取り組みを分析しSDGsレポートにまとめるなどして広く紹介することで、アジアや世界の問題解決に役立てていくとともに、チェンジエージェントとして、富山市がより持続可能な都市に転換していくプロセスを支援していきます。



参考リンク

・G7 富山環境大臣会合「都市の役割」パラレルセッション
<https://www.iges.or.jp/jp/pmo/20160515.html>